

VII 各年次の到達目標

看護であることを考え続け実践できる力

学びの特徴	教育目標		1. 人と関わる経験をととして、自己理解・他者理解をしていくことで、深く人間を理解し、豊かな人間関係能力を身につけることができる。 2. 生命の尊厳と倫理観に基づく人間愛を基盤として、こころのふれあう看護実践能力を身につけることができる。 3. 対象の生活の自立と生活の質の向上が図れるように、生活を整える看護実践能力を身につけることができる。 4. 保健・医療・福祉における看護の役割を理解し、多職種と連携・協働し、地域・在宅においても看護実践を推進できる能力を身につけることができる。 5. 専門職業人としての倫理観をもち、自ら学び行動することで、広い視野を持ち、看護であることないことを探究し続ける能力を身につけることができる。				
	卒業生像	5つの花びら	人間関係能力	看護実践能力	看護観	チームで働く力	自ら学び考え続ける
定着・継続させる ●学びの集大成として、看護であること、看護でないことを考え続け、知識・技術・態度・能力を定着させるとともに継続を目指す。	4年次	花が咲く 	●自己洞察を深め、他者との関係をより良い関係に発展できる ●さまざまな対象の立場に立って自ら関わり、積極的に援助的人間関係を築ける ●状況に応じて自己の役割を理解し行動できる ●他者との相互関係を通し自分自身も成長できる	●対象の生命力の消耗を最小にし生活の自立とその質の向上が図れるよう生活過程を整える看護ができる ●対象の状況に合わせて臨床判断でき、援助を選択し実施できる ●複合的な状況をアセスメントできる ●臨床判断に基づき計画立案、実施、評価、修正を繰り返し看護を実践できる ●計画した看護を自ら周囲の人々に指導・助言・協力を得ながら実践できる	●論理的思考力を用いて、自己の看護観を他者に表現できる ●看護であること看護でないことについて自ら問いをたて考え続ける ●ナラティブで確かめられたことを活用し実践できる	●ケアの質を高めて行くために、どのように多職種等と連携・協働すればよいのか考え、行動することができる ●組織における医療安全を考えることができる ●生活を営むための社会保障制度を理解できる ●看護に関する制度、政策を理解し、経済的視点、社会的視点で看護を考えることができる	●専門職業人を目指す者として自律して責任のある行動を継続する ●生命倫理の4原則を理解し、倫理的視点で考えることができる ●社会の変化や動向に関心を寄せながら、自律的に考え、判断し、行動する姿勢を継続することができる
繰り返し使う ●臨地実習での経験をさらに振り返り、看護であること看護でないことを学びの経験を通して考え、知識・技術・態度・能力を発展させる。	3年次	蕾が育つ 	●自分も相手も尊重しながら自己理解、他者理解を深める ●自己の思考・行動に気づき、他者への影響を考えられる ●人の認識のありようと行動の関連を理解する ●さまざまな人の立場に立って考え援助的人間関係が築ける ●様々な集団の中で、メンバーシップ、リーダーシップ、パートナーシップを発揮できる ●生命を尊重し倫理観に基づき行動できる	●対象の生命力の消耗を最小にし、自然治癒力が発動しやすいよう生活過程を整える看護ができる ●さまざまな状態・療養の場にある対象のアセスメント、計画立案、実施、評価ができる ●実施したことを適切に報告・連絡・相談できる ●生活を営む人を支える社会資源の活用を理解できる	●論理的思考の4つの考え方（時間軸、因果関係、対比、上り下り）を用いて、意見交換できる ●幅広い視野で看護であることないことをこたわって考えられる ●内省し考えたことを活用できる ●看護における研究の意義を理解できる ●文献を批判的に吟味し活用できる	●保健・医療・福祉および社会におけるさまざまな職種の専門性を理解し、互いの力を発揮しあうための多職種連携が理解できる ●多職種連携におけるパートナーシップを理解できる	●専門職業人を目指すものとして自律して責任のある行動がとれる ●社会の変化や動向に関心を寄せながら、自律的に考え、判断し、行動することができる ●自己のキャリア形成を考えることができる
使ってみる ●1年次で学んだ土台となる知識を実際に活用し学びを深める。	2年次	芽が出て双葉が育つ 	●自己のありように気づき、他者に表現できる ●ありのままの自分を肯定できる ●他者の多様性を理解できる ●アサーティブにコミュニケーションできる ●相手の立場に立って考え関わりあうことができる ●メンバーシップ、リーダーシップを発揮できる ●生命を尊重し倫理観に基づいた姿勢を持つ	●健康障害による生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整える看護援助ができる ●日常生活を営む人の健康障害が理解できる ●生活を営む人の多様性を理解できる ●観察した事実をつなぎ合わせ、対象の心身に起きていることをアセスメントできる ●アセスメントに基づき計画立案、実施、評価できる ●実体験からケアリングについて考えることができる ●観察した事実を報告し相談できる	●論理的思考の4つの考え方（時間軸、因果関係、対比、上り下り）を用いて、自分の考えを表現できる ●看護であることないことをこたわって考えられる ●内省し考えたことを表現できる	●保健・医療・福祉における看護の役割について理解し、連携・協働について考えることができる	●専門職業人を目指す者としての自覚を持ち、責任のある行動がとれる ●自己の役割や目標を意識し、主体的に学習することができる ●社会におけるさまざまな規範の根拠について考えることができる ●情報を適切に活用できる
土台をつくる ●看護職に成長するために必要な基盤となる科目を学び、自分自身の土台をつくる。	1年次	耕す 	●人間関係の基本を理解できる ●ありのままの自分を見つめられる ●自分という存在に気づける ●聴く、伝える、受けとめることができる ●相手の立場に立って考えられる ●人権の尊重、生命の尊厳について学び倫理観を培う	●生活を営む人の生活過程を整える看護援助ができる ●身体へのしくみがわかる ●フィジカルアセスメントができる ●看護過程の基礎を理解できる ●看護の対象となる人がわかる ●観察した事実を報告できる	●論理的思考の4つの考え方（時間軸、因果関係、対比、上り下り）がわかる ●ナラティブ（経験を語り合い振り返ることで自分を見つめ自ら気づきを発見する）の基礎を理解する ●自分と他者の考えがわかる ●看護であること看護でないことを考える	●保健・医療・福祉における看護の役割について知ることができる	●専門職業人としての看護者の役割と責任を知る ●看護職の倫理綱領を理解できる ●周囲の人や物事に関心を持ち、看護学生として自己学習する姿勢を身につけられる。

人間を理解する力・豊かな人間関係力